研究課題：大学図書館による学生のキャリア学習支援プログラムに関する調査研究

大学図書館による学生のキャリア学習支援プログラムに関する調査研究

1. 国立・私立大学図書館を対象としたネット調査（立田慶裕）

(1) 調査の概要と結果

国立大学 62 校、私立大学 205 校を対象とし、各 25 校、62 校より回答を得た。

キャリアに関する図書館サービスの質問から次の結果を得た。

図１　キャリアに関する図書館サービス(大学種別毎)

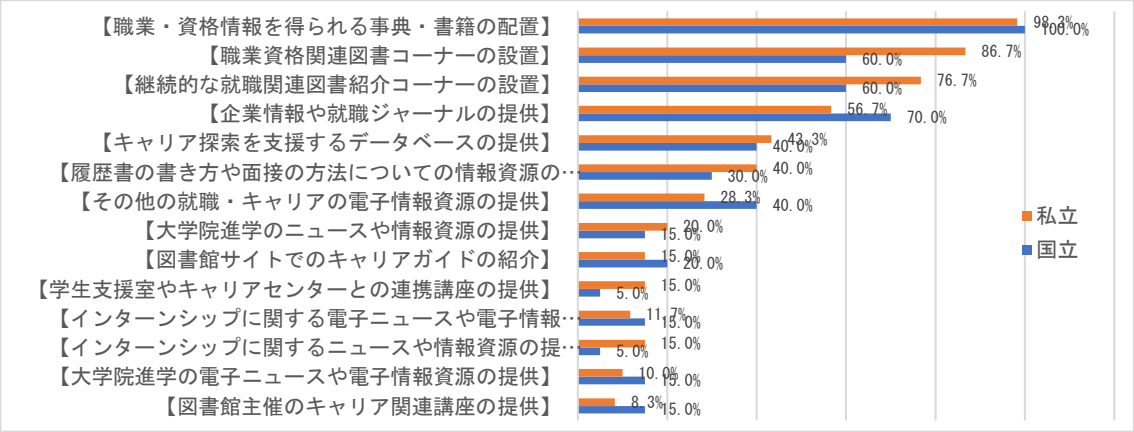
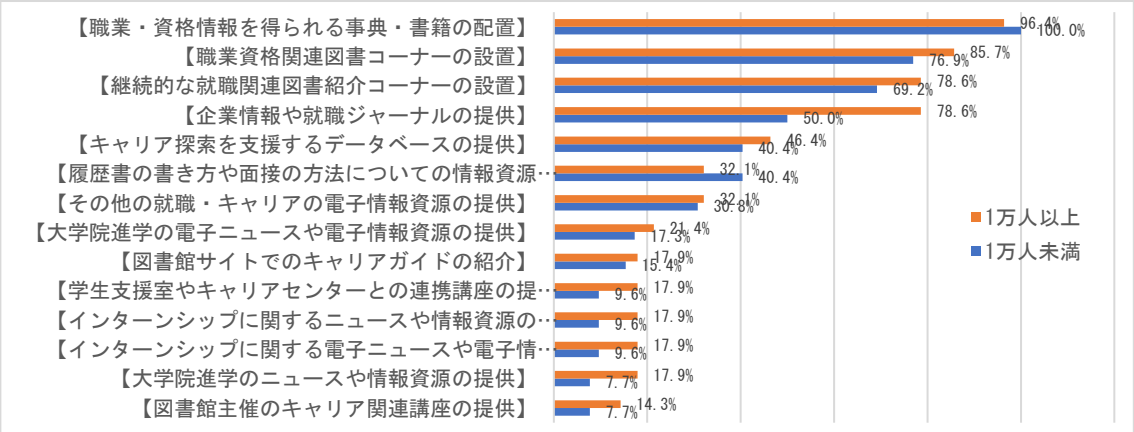


図２　キャリアに関する図書館サービス(大学規模別)



(2) ネット調査からの考察

1）大学の種別、規模別に異なる図書館数が、図書館サービスに大きな影響を与える

2）大規模大学で、学部別の図書館によって、キャリアサービスが異なる。

3）履歴書の書き方や面接法について、３割～4 割近い図書館が電子情報を提供している。

4）キャリアセンターとの連携講座は１割以上で実施している。私立で多い。

5）図書館によるキャリアの電子情報は、国立や大規模校に多い

2. 国内の大学図書館によるキャリア学習支援の事例調査（新居田久美子）

(1) 対象大学図書館の概要

		大阪大学総合	大阪大学外国学	立命館大学	中央大学	放送大学	本学
1	特色あるキャリア支援サービス：(独自の取り組み)	×	×	○	×	×	×
2	学内組織（キャリアセンターや各学部等）との協働関係：(イベント・セミナー、授業など)	×	×	×	×	×	×
3	学外組織（連携企業等）との協働関係：(行政・事業所と図書館の連携事業など)	○	○	×	○	×	×
4	キャリア支援図書の提供状況：(図書リスト)	○	○	○	○	×	×

（次ページに続く）

5	学生の利用状況：(入館者数、キャリア図書貸し出し状況など)	○	○	○	○	○	×
6	大学教員や職員のキャリア支援サービスへの協力状況：(学内連携状況)	○	○	○	○	○	○
7	大学のキャリア支援に関わる目標や理念等の書類：（文書化しているものがあれば)	○	○	○	○	△	×
8	学部別、学科別などの専門職、技術職などに対応した支援（専門職支援など）	○	○	○	○	○	○
9	留学生の利用について	○	○	○	○	○	○

【国立大学】
1)大阪大学総合図書館（豊中キャンパス）：各キャンパスの特色を生かし、専門領域ごとの独自運営を行う。キャリア支援図書予算はすべてキャリアセンターから支出（研究に関係しないもの)。大学院生による学習・進路サポートデスク、ラーニング・サポーター(LS)制度などがあり、各学部・専攻の大学院生が先輩として進路や大学院入試対策を支援する。
2)大阪大学箕面キャンパス外国学図書館には、箕面市立船場図書館が併設されており、地域行政による生涯学習講座をはじめとして、大阪大学とのコラボによる市民公開講座なども実施されている。

【私立大学】
1)立命館大学平井嘉一郎記念図書館（衣笠キャンパス）：学生ライブラリースタッフによるサービスカウンターが設置され、図書館内で企業説明会に参加し、スタッフと面接練習ができる多目的スペースが用意されている。多言語の教材が充実し、就職関連図書、データベースから入手できる。
2) 中央大学総合図書館：将来のキャリア設計や進路選択に役に立つ図書・資料を配架した「キャリア学習ゲート」と名付けられたコーナーが設置されている。各種就活情報収集、弁護士資格に役立つデータベースなどを提供し、それらの有効活用のためのセミナーなどを学部要請に合わせ実施している。
3) 放送大学付属図書館（公設民営大学)：大卒資格・教員免状など各種資格を取得できる通信制大学・大学院として必要な教材を完備し、国立情報学研究所の学術情報システムを活用して他大学図書館の所蔵図書を利用することができる。直接的な就職支援サービスは持たないが、キャリアアップや生涯学習、リカレント教育を通して学習者の再就職や学び直しを支援する総合図書館である。
4) 神戸学院大学有瀬図書館：図書館留学、多読ラリーが実施され語学力の向上に寄与している。各学部との協働関係もあり、「ライブラリーツアー」、「情報探索セミナー」を要請にあわせて実施している。就職支援に関する選書は、図書館が行う。経済誌・新聞データベースを各種保有、公開している。

(2)面接訪問調査からの考察
1) キャリア支援図書の配架についての予算・選書の方法は多彩であり、キャリアセンターと図書館予算が配当先にある。
2) 大学生・院生による相互支援サービス活動（レファレンス、パスファインダー、おすすめ図書、進路相談など）が、多くの大学でみられた。
3) 縦割り運営による影響
・「横断的連携の必要性は理解しているがコロナ禍の影響が残り、今はまだ難しい」
・「部局の業務割り当てに専門性があり、不便は今のところない」
4)「貸出し」中心から「課題解決」、そして「長期滞在」の場へと図書館機能が変化し定着してきた。
5) 人口減少期において伝統的な機能の大学図書館体制のままでは、直接足を運ぶ来館者は減少していく可能性は否めない。

【参考文献】
新居田久美子(2020)『ラーニング・スペースにおける学びの共同体の有用性』人文学部紀要 / 神戸学院大学人文学部 編 (40), 157-167
立田慶裕 (2023)『大学図書館のマネジメント ： 世界の大学に学ぶ(第 12 回)ワシントン大学の図書館 ： 図書館とキャリアサービス』私学経営 (576), 33-39